

自ら学びを調整し、自己の学びを深める児童生徒の育成
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」による学習者主体の授業を通して～

十島村立小宝島学園

1 研究のねらい

本校の学校教育目標である「豊かな心を持ち、深く学び、創意工夫しながらたくましく生きる児童生徒を育成する」の具現化を求め、次のとおり「学習者主体の授業」の実現に向けて「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して研究を行った。

児童生徒の実態
<ul style="list-style-type: none"> ● 課題や解決方法を「自己選択・自己決定」し、自分の学びを調整することが課題 ● 自己の考えを表現し、他者の考えを取り入れ、自分の学びを深めることが課題
社会的要請
<ul style="list-style-type: none"> ■ 「令和の日本型教育」の構築 → 「学習者主体の授業」の実現 ■ 学校DXの推進 → これからの時代に求められる力（Society5.0, VUCA, ウェルビーイング）

2 研究の概要

目指す児童生徒の姿
<ul style="list-style-type: none"> ○ 自ら課題を選択し、学び方を「自己選択・自己決定」しながら、主体的に学ぼうとする姿 ○ 自己の考えを表現し、他者の考えを取り入れながら、探究的に学びを深めようとする姿
研究の仮説
各教科において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」による学習者主体の授業を行うことによって、児童生徒が自ら学びを調整し、自己の学びを深めることができるのではないか。

3 研究の内容

研究の視点
視点1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の学習過程への位置付け → 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実への手立て
視点2 「個別最適な学び」の手立て → 児童生徒が「自己選択・自己決定」し、学びを調整するための手立て
視点3 「協働的な学び」の手立て → 児童生徒が自分の考えを表現し、学びを深めるための手立て

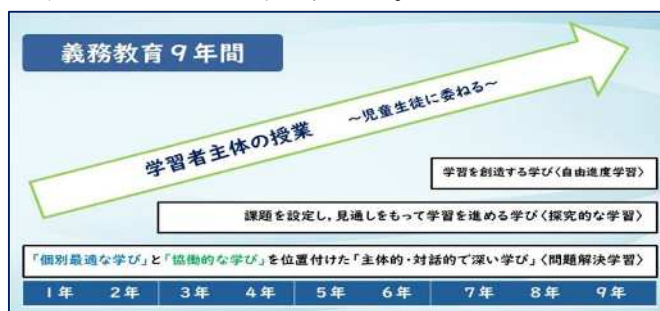
4 研究の実際

(1) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の学習過程への位置付け

ア 義務教育9年間 義務教育9年間で段階的に「目指す児童生徒の学びの姿」を整理し、教師が見通しをもってファシリテーターの役割を果たすことができるよう工夫した。

イ 単元及び題材 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を位置付け、児童生徒が見通しをもって学習に取り組み、単元及び題材の目標が達成できるよう工夫した。

ウ 一単位時間 一単位時間においても、「個別最適な学び」を生かした「協働的な学び」を行うことができるよう工夫した。

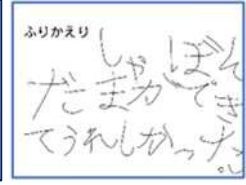


(2) 「個別最適な学び」の手立て

ア 課題設定（見通し）の工夫 単元を通して身に付けさせたい課題を明確にし、一単位時間においても、自分のめあてや学習課題を「自己選択・自己決定」させることで児童生徒の主体的な学びにつながるよう工夫した。



イ 振り返りの充実 写真や動画を活用して振り返り、学習計画表に記録することで、単元や題材の中で振り返りを生かしながら学びが連続するよう工夫した。振り返りを積み重ねることで、自己肯定感の高揚にもつながっている。



ウ ICTの効果的な活用 デジタル教材や写真、解説動画やモデル動画等、児童生徒が課題解決に向けて効果的に活用したり、思考を可視化して理解を深めたりすることができるよう手立てを工夫した。

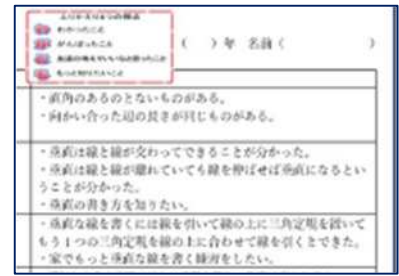
(3) 「協働的な学び」の手立て

ア 対話活動の設定 自由交流や話し合いタイム、アドバイス活動や発表等、対話を通して自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを聞いて自分の考えを深めたりする場の設定、対話の仕方や内容を工夫した。



イ 振り返りの充実 学習計画表やリフレクションシート等を活用し、家庭学習や次時の学習につなげたり、他者の考えを取り入れて、自己の考えを深めたりすることができるよう振り返りの方法を工夫した。

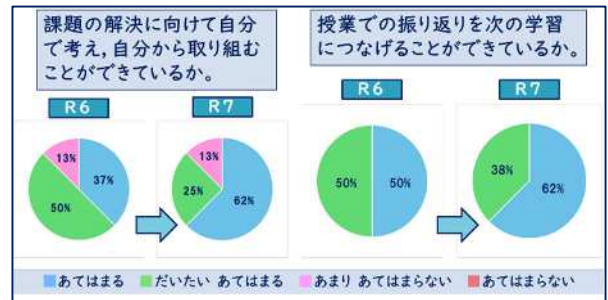
ウ ICTの効果的な活用 ロイロノートを活用して発表することで自分の考えを深め、新たな課題につなげたり、自分の考えを整理してまとめ、より相手に伝わるように表現したりするために思考ツール等によって、効果的な活用や手立てを工夫した。



5 研究のまとめ

(1) 成果

- 単元を通して見通しやゴールイメージをもたせることで、児童生徒が学習課題や自分のめあてを「自己選択・自己決定」しながら、学びを調整する姿が見られるようになってきた。
- 対話活動や振り返りを積み重ね、リフレクションシート等を活用することで、児童生徒が自ら学びを振り返り、自分の言葉で学習したことをまとめたり、伝えたりする姿が見られるようになり、新たな課題の発見にもつながってきている。



(2) 課題

- 学習課題や解決方法を「自己選択・自己決定」させる際の選択肢の工夫が課題である。
- 極少数人数での授業において、対話活動での学びの深まりがまだ十分ではない。自分の考えを話したり書いたりして、表現する力を発達段階に応じて、系統的に高めていくことが必要である。

6 今後の取組

2年間の研究の成果を生かして、今後も「課題設定の工夫」や「振り返りの充実」を中心に、IR法によって、目指す児童生徒の姿に迫るために、子供の学びの姿から授業研究を行う「学習者主体の授業」に取り組んでいきたい。

